

生まれてきたのはなぜさ？

我が昭和の少年時代の青春ドラマ「われら青春」（中村雅俊主演）のテーマ曲「帰らざる日のために」の歌い出しはこんなのでした。

♪♪「生まれて来たのは、なぜさ。教えてぼくらは、誰さ。遠い雲に聞いてみても何も言わない。・・・」♪♪

まさにコテコテの昭和青春歌謡曲、我が懐かしのヒットソング。実にいい歌でした。

「生まれてきたのはなぜ？」遠い雲に聞いてみたところで、雲が答えてくれるはずはありません。当たり前です。

★ ★

それはさておき、生まれてきたからには充実した人生を誰しもが望むはずで、子どもたちにも豊かな人生を歩んで欲しいが故に、我々はいろいろな教育的目標を掲げます。そこで今回は、学校教育で、というより生きていく上で大切な感情とされている「**自己肯定感**」と「**自己有用感**」について考えたいと思います。

新潟市教育ビジョンでは、「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」の重要な視点として、『子どもの**自己肯定感**を高めましょう』と謳っています。

子どもが様々な悩みを抱えていたり、いろんな問題行動を起こすのも、その子の「**自己肯定感**」が低いからだと言われます。「**自己肯定感**」を高めることがその子を成長させ、問題行動を減らせるという論理です。

一方で、生徒の「**自己有用感**」を育むことも大切だとも言われています。

近年の傾向では、特に「**自己肯定感**」の重要性を謳っている学校や社会的風潮が目立ちます。さらに「**自己有用感**」が「**自己肯定感**」と同じものとして考えている人や、同一の概念として学校で扱われている傾向も見受けられます。でも本当に同じものなのでしょうか？

一体、その違いは何なのか、わかりやすく明確に答えられる人は少ないと思いますが、私は、読んで字の如く、似て非なるものとだと思えます。その言葉通りに解釈すれば、次のような意味だと捉えています。

「**自己肯定感**」：様々な自分を認め、何事もポジティブに捉え
自分をリスペクトできる感情

「**自己有用感**」：自分の存在が周囲の人に役立っている、
周囲に貢献していると認識できる感情

具体的に、あるチームスポーツの運動部に所属している中学生をモデルに、次の4パターンで考えてみましょう。

	自己肯定感	自己有用感	自分自身の感情
1	低い	低い	自分は体力も運動能力も低くてセンスもない。先生やチームのみんなからは、きっと役立たずだと思われているのに違いない。このチームに居続けることは周囲に迷惑をかけるだけだ。
2	低い	高い	自分は体力も運動能力も低くてセンスもない。でも、自分なりに目標を立てて成長していると実感している。それは先生やチームに恵まれ、こんな自分でも必要されているからだ。本当に感謝している。
3	高い	低い	自分は体力や運動能力も高くセンスもある。努力もしている。でも、自分なりの目標がなかなか達成できない。そもそも練習環境が悪いし、指導者やチームにも恵まれていない。
4	高い	高い	先生やチームのみんなのおかげで自分は結果を出せたし、自分の能力を高めることもできた。だから、これからもチームメートの力になれると思う。もっとチームのために頑張りたい。

当然のごとく、「自己肯定感」「自己有用感」のどちらも低い(上記パターン1)状態だと、♪♪「生まれてきたのはなぜさ」♪♪、と思わず口ずさみながら嘆き悲しみたくなるかもしれません。理想としてはどちらも高い(上記パターン4)に越したことはありません。家庭でも学校でも、パターン4をめざして努力するべきです。

ただ、「自己肯定感」「自己有用感」のどちらの優先順位が高いかというと、私は個人的に「自己有用感」の方だと思うのです。

「自己有用感」は『過程・環境・集団・他との関わり』とリンクし、「自己肯定感」は『結果・達成感・個・自分を見つめる・自信』とリンクしていると考えられるからです。

結果よりも過程を大切にすることこそが教育の本質だと考えれば、「自己有用感」を高めることの方がスムーズだと思います。自分自身を認めてくれる場所、自分を受け入れてくれる環境を手に入れることで、自分の思考パターンを徐々に変化させながら「自己肯定感」を得られる方が自然の流れです。

また、「自己肯定感」が高いのに「自己有用感」が低い人間(上記パターン3)は、謙虚さの欠けた不遜な人間になる危険性があることも憂慮されます。

いずれにせよ、優先順位云々が本質ではなく、どちらの感情も子どもの成長には重要な要素であり、その両立が求められます。だからこそ、我々は子どもを愛し・励まし・応援してあげられる存在として努力し、子どもは周囲から愛され・励まされ・応援される存在として努力する必要があるのです。

そして、私はこう思うのです・・・・・・・・・・・・・・・・

◇ Q 1. なぜ、あなたは生まれてきたのか？
→A 1. あなたが周囲や世の中から必ず必要とされる存在だから。
◇ Q 2. 教えてぼくらは誰さ？
→A 2. わかりません。いろんな人と出会って様々な経験をして「自分は何者?」、だと悩み苦しみながら追い求め続ける。それこそが人生。ダサい、クサイと言われようと、生徒に人生を語れる、いつまでも青春を語れる教師でありたいなあ、と思います。